

【ポスター発表】

放課後児童クラブ支援員の支援のあり方に関する一考察

—支援員の発言からみえてきたこと—

○名古屋経済大学 堀 美鈴 (009383)

関谷 みのぶ (名古屋経済大学・004555)

キーワード：放課後児童クラブ・個と集団・共通理解

1. 研究目的

より良い放課後児童クラブを目指すためには、環境として子どもに最も影響を与える支援員・補助員（以下支援員）の言動はとても重要であり、子どもを中心に支援員の共通理解はなくてはならないものである。そこで、ビデオ研修時の支援員の発言に着目し、支援員の内面を浮かび上がらせ、目にみえないものを言語化し、共通理解を図る過程で見えてきた支援員の子ども観を明らかにする。

2. 研究の視点および方法

2017年度より、A市においてビデオを利用した支援員対象の研修会を行っている。A市は9つの小学校区ごとに公立放課後児童クラブが設置されており、そのうち8つの児童クラブでの日常的な場면을ビデオに撮り、研修に取り入れている。¹⁾

表のように、ビデオ撮影の後研修会を実施し、再度ビデオ撮影を行い、2回目の研修会を行うというサイクルで2年間行った。2018年度は、支援員と子どもが関わる場面をいくつか撮り、その場面の発言や行動の理由について考え、意見を出し合う事に重点を置いた。

ビデオ撮影日	児童クラブ名	A	B	C	D	E	F	G	H
2017	ビデオ撮影日1回目	6月16日	5月26日	6月26日	7月18日	6月20日	5月12日	10月3日	6月19日
	研修会1回目	9月8日	9月7日	9月12日	9月14日	9月15日	10月23日		9月11日
	ビデオ撮影日2回目	12月4日	11月27日	1月15日	12月11日	11月20日	12月12日		12月5日
	研修会2回目(合同研修)	1月22日②	1月23日③	1月24日④	1月22日②	1月16日①	1月23日③	1月24日④	1月16日①
2018	ビデオ撮影日1回目	6月16日	6月11日	6月16日	6月21日	6月8日	6月15日		6月8日
	研修会2回目(合同研修)	7月12日③	7月12日③	7月10日②	7月6日①	7月10日②	7月10日②		7月6日①
	ビデオ撮影日2回目	12月17日	1月5日	12月19日	1月5日	12月12日	12月19日	1月5日	12月12日
	研修会2回目(合同研修)	3月6日②	3月7日③	2月5日①	3月7日③	3月6日②	3月6日②	2月5日①	2月5日①

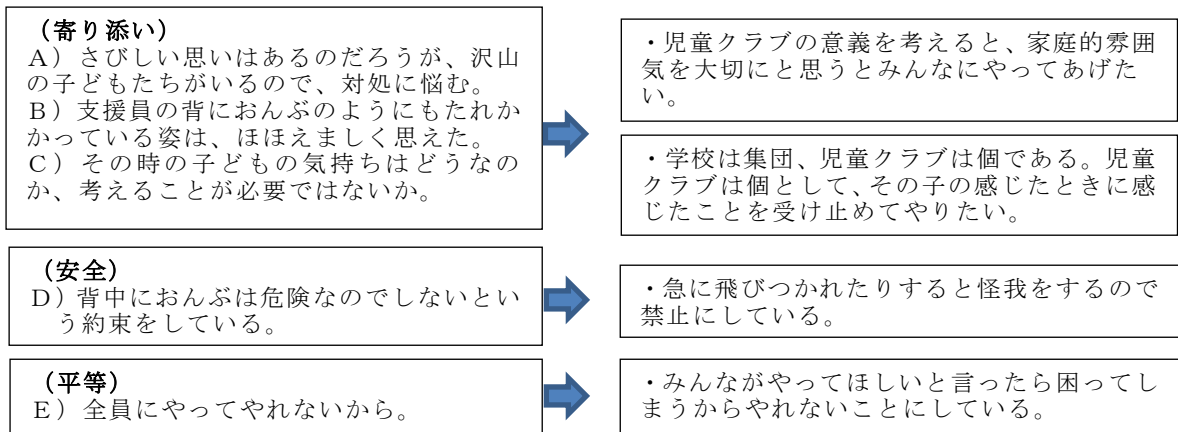
* 研修会(合同研修)は、同番号が同じ研修に参加している

3. 倫理的配慮

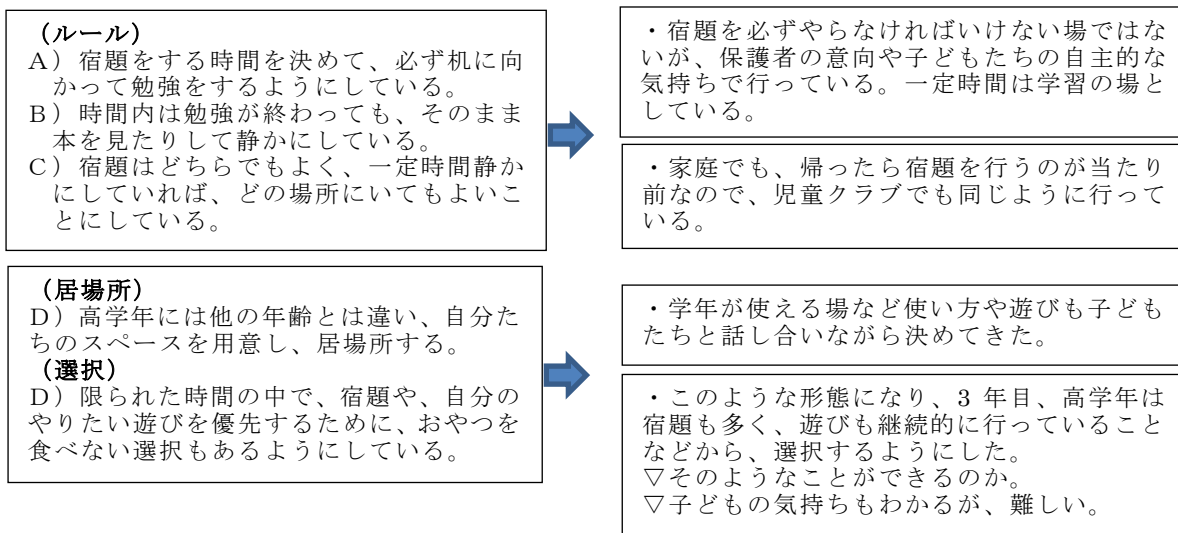
日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守し、研究を行った。録画したビデオについては、研究協力者と研究協力館・センター及びA市に事前に内容の確認を行ったうえで、研究に使用することを説明した。あわせて、研究協力者及び研究協力館・センター及びA市には、個人が特定されることのないよう配慮すること、また、得られた情報に関して、研究者が責任を持って管理することを口頭にて約束した。

4. 研究結果

場面をとらえて①・・・支援員にまわりついてくる子どもについて



場面をとらえて②・・・高学年への対応



5. 考察

発言は、「ルール」「安全」「平等」と「子どもの主体性」「子どもの気持ちの受容」に分類され、前者は「集団」、後者は「個」を重視していると考えられる。また、学校を「集団」とすると家庭は「個」であり、児童クラブは子どもにとって、どちらも併せ持った居場所となる。「保護者が昼間家庭にいないものに、適切な遊び、及び、生活の場を与え健全な育成を図る」²⁾場所としての役割をもつ児童クラブを、家庭に代わる場と考えると、「個人の気持ちを受け止める」ことを大切にしたいと支援員の多くは考える。しかし集団である以上、安全やルールも大切である。どちらを重要視するかによって、子どもへの関わり方の違いが表れ、支援員が揺れ動くところであり、目に見えないものでもある。支援者間の共通理解を図るためには、同じ考えになるという事ではなく、お互いの思いを浮き彫りにすること、言語化することであり、そのために研修を重ねることは効果的であると考えられる。

1) 日本社会福祉学会第66回秋季大会 報告要旨集 PP. 353-356, 2018
 2) 厚生労働省『放課後児童クラブ運営指針解説書』, 2017